

News Letter

Number 19

日本獣医解剖学会報

March 18th, 2002

◎国立大学の再編統合と解剖学の将来◎

会長 林 良博

国立大学の法人化が決定的になってからというもの、全国各地で国立大学の再編統合が話し合われている。これが獣医学科・学部の再編統合を促進させるのか、それとも大きな波に吞まれて消し飛んでしまうのか。再編統合を待ち望んでいた人々にとって、大いに心配されるところである。

わたしの予想では、短期的にみると少し足踏み状態が続くかもしれない。しかし、長期的にみると再編統合に弾みがつくだろう。いま優先させたいと文部科学省が考えているのは、同一県内の国立大学と医科大学との統合であり、また県を超えた教育学部同士の再編統合である。同一県内にある既存の国立大学に医学部を設置するのではなく、医科単科大学として設置したのは、種々の理由があったにせよ、国民には理解しにくいことであった。国立大学の再編統合を考えるならば、その過ちを正すことが先だろう。また 10 大学に置かれている獣医学よりも、48 大学にまたがる教育学の再編統合のほうが、枠組みとしては先に進める必要があることも理解しやすい。さらに教育学の方が、獣医学よりも国家的優先順位が高いことも、残念ながら認めざるを得ない。

文部科学省は、一県一国立大学を守ろうとはしていない。この原則に拘ってはいは、大胆な再編統合が考えにくくなるからである。しかし、適正な地域バランスをとることは、地域振興の観点からみて重要であると考えているだろう。その場合、適正な地域バランスとはなにか。たとえば再編しても、全国に 10 学部以上設置できる教育学の場合であれば、九州は北と南に、中国と四国も別に、また関東と甲信越も別にという風に、かなり緻密な配置が考えられるであろう。しかし現状で全国に 10 学部・学科しかない獣医学を再編統合するのであれば、九州や北海道に獣医学を有する大学を複数置くのは無理がある。また獣医学科・学部がない四国に設置することもあり得ない。このように自然体で考えると、将来どのように配置されるのか、その姿が自ずとみえてくる。

獣医学は、多くの学生にはペットを対象とした学問と映っているようだが、一般には畜産業と密接な関係がある学問という理解がある。したがって、畜産学がそう考えられているように、獣医学を有する大学が大都市圏にのみ配置されることはないと思うし、文部科学省もそう理解しているに違いない。特に近年問題となった O157、口蹄疫、BSE は、畜産分野における獣医学の必要性を多くの人々に認識させることになったと同時に、宮崎県や北海道という畜産県における獣医学の役割をクローズアップさせた。

わたしの能力では、どんなに一生懸命考えても、南九州や北海道に獣医学を配置しない理由が思いつかない。しかし数年間にわたって獣医学の仲間が論議した末に、北九州を獣医学の拠点のひとつにしたいという結論にたどり着いたのだから、それは尊重されるべきであると思うし、その可能性はゼロではないと考えてきた。

獣医学にとって、北九州がひとつの拠点になり得る可能性があると考えた理由は、「大学に自己決定能力がない」という現実があったからだ。悲しいことではあるが、国立大学は文部科学省の末端機関であり、自律的・自主的な決定能力を欠いている。その結果、民間企業が行っているような、生き残りをかけて自分の大学を他大学と統合するなどという発想がなかった。骨の髄まで「親方日の丸」が染み付いており、大学が潰れるかもしれないなぞとは想像もしなかった。

その意味では、国立大学の先生は大らかでいることができた。他分野の先生は、獣医学の先生たちが騒いでうるさいと思えば「どうぞ好きのところへ行ってお下さい」と言える大らかさがあった。しかし昨年 6 月の「遠山プラン」発表以降、本気で自律的な大学づくりを要請されるようになった国立大学の先生たちが気付いたことは、「自分の大学にあるものは、猫一匹といえども自分の財産」という、ごく当たり前のことであった。そうすると、自分の大学の先生たちが他大学に移りたいなぞという話を、大らかに聞き流すことはできなくなる。とくに獣医学のような人気学科を他大学に渡すなんてことは、トンでもないことだ。

民間会社では当たり前のこと、しかし国立大学では考えもしなかった

こと、そのどちらの組織が良いのか。にわかには判断がつかない。民間会社であれば、社長に相談することなく A 社と B 社の食肉部門の担当者が、両部門の合併を話し合うことなんかあり得ない。そんなことをすれば、間違いない両社の食肉部門の社員はクビになるであろう。しかし大学という組織では、学長や学部長に相談することなく、獣医学科の先生は自由に統合問題を話し合うことができる。

自由に将来構想を話し合うことができるという点では、大学の方が圧倒的に優れている。しかし、組織に責任をもたないからこそ、そんな勝手な振る舞いが許されているというのを考えると、勝手に話し合っていることの「限りない軽さ」を認識することが重要だ。つまり、いくら真摯に話し合っても合意しようとも、それは仲間内の話しであって、なんの拘束力もない。民間会社の社員が、仕事を終えてから一杯飲み屋で話し合ったことと、本質的にはなんら変わらない。

しかし大学は大らかさが売り物である。一杯飲み屋の話であろうと何であろうと、自分たちの未来を自由に語り合うことができる大らかな制度は、学問の府である大学に似合っている。また急に学長が民間会社の社長のように、せせこましく自分の大学の財産をしっかりと数えるようなことをしないで、先生方がやりたいことを自由にやらせるようにした方が、教育研究という事業には似合っている。

だが現実にはそうでない。効率的な運営を達成するように迫られている国立大学の学長にとって、獣医学を他大学に移すとなれば、それ相当の見返りを他大学に要求するのは当然のことになる。他大学にとっても、自分の大学に抱え込んでいてもあまりメリットがない分野を放出しても、獣医学を獲得する方がメリットが大きいと判断されたならば、その交換に応じるであろう。国立大学における獣医学の再編統合問題は、ビジネスの世界の問題として捉えられるようになったのである。

このような事態を迎えて、解剖学に携わる人間たちはどうしたらいいのであろうか。わたし自身は、これまでと同様に、自然体でいきたいと考えている。国立大学が法人化されようがされまいが、わたしたちの解剖学の使命が変わるわけではない。また大学が再編統合されようがされまいが、解剖学の中身が変質するわけではない。

制度を論ずることは大切であるが、当事者能力のないわたしたちが「あてもない、こうでもない」と制度問題を一杯飲み屋で話すよりも、当事者能力のある学問の中身を話す方がはるかに実りがあるし、一杯飲み屋の話題として適している。制度の問題は、当事者能力のある学長に任せておけばよい。どんな学問を創っていくのか、どんな教育によって若者を伸ばすことができるのか、自分が面白いと思っている研究と同時に、他人が面白いと思っている研究を理解するにはどうしたらいいか。

これらの問題について、わたしたちは当事者能力をもっているし、その能力をもっと発揮すべきではないだろうか。(平成 14 年 3 月 13 日記)

◇ 第 133 回 日本獣医学会 ◇

(2002 年 3 月 28 日～30 日) 会場：専修大学生田キャンパス

日本獣医解剖学会シンポジウム

3 月 28 日 (木) 13:30-16:30 第 IV 会場

形態解析と遺伝子解析との接点

座長：岩永敏彦 (北大)、神田尚俊 (農工大)

- | | | |
|------|---|------------|
| SA-1 | ISH 法による染色体の構造解析 | 神田尚俊 (農工大) |
| SA-2 | 合成オリゴヌクレオチドを用いた in situ hybridization 法と包埋前金コロイド法 | 岩永敏彦 (北大) |
| SA-3 | 性の決定・分化機構の分子細胞遺伝学 | 星 信彦 (北里大) |
| SA-4 | 精巣における減数分裂中期特異的アポトーシスの形態解析と責任因子の探索 | 昆 泰寛 (北大) |
| SA-5 | 新規制がん剤による胃腺がん細胞のアポトーシス放射線増感 | 稲波 修 (北大) |
| SA-6 | 病理形態形成過程における細胞外マトリックスおよび細胞骨格蛋白質遺伝子の発現動態 | 新井克彦 (農工大) |

SA-7 変異タウ遺伝子導入マウスの解析 種村健太郎1、赤木 巧1、富永貴志1、村山美由紀1、二本松尚美1、端川 勉1、市川道教1、山口晴保2、高島明彦1 (1 理研、2 群馬大)

石井万幾2、野馬隆志2、九郎丸正道2、多屋長治3、米川博通3、林 良博2 (1 生研機構、2 東大・獣医解剖、3 都臨床研) 11:10-11:30 昆 泰寛 (北大)

<第11回 獣医解剖サテライトフォーラム>

3月30日(土) 13:30-14:30 第IV会場

展開期を迎える内分泌攪乱化学物質研究

座長：大迫誠一郎(環境研)

SFA-1 トランスジェネレーションアッセイによるエチニルエストラジオールの低用量影響評価 青山博昭1、鈴木勝士2 (1 残留研、2 日獣大)

一般講演

3月28日(木) 第IV会場 演題番号A-1~15 (9:00~11:30) 9:00-9:10 座長：村上隆之(宮崎大)

A-1. イヌ舌の筋組織と結合組織の構築に関する形態学的研究：○武藤頭一郎1、福田敏秀2、吉岡一機1、大野秀樹1、Yue Zhan-Peng3、安鉄洙3、長竿 淳1 (1 北里大・獣医解剖、2 国循研・人工臓器部、3 長春農牧大・動物科技系)

9:10-9:30 座長：岩永敏彦(北大)

A-2. Ste20型キナーゼNRK/NESKの胎子骨格筋特異的発現とその機能解析：中野久丹子1、○金井正美1、金井克晃2、矢崎和盛1、喜多村直実3、林 良博2 (1 都臨床研、2 東大・獣医解剖、3 東工大・生命理工)

A-3 IV. シバヤギの膝関節滑膜の構造とヒアルロン酸の局在 ○櫻井勝吾1、永岡大典1、月瀬 東1 (1 日大・獣医解剖)

9:30-9:50 座長：月瀬 東(日大)

A-4 IV. ウサギ膝関節の滑膜における三次元細胞構築と関節炎に伴う形態変化：○仁尾純子1、岩永敏彦1 (1 北大・解剖)

A-5. ウマ屈腱炎に関する分子病理学的解析 [6]培養腱細胞におけるルミカンおよびファイブロモデュリン発現について：○桑野睦敏1、笠島快周1、吉原豊彦1、平野司郎1、新井克彦2 (1JRA・総研、2 農工大・硬蛋白研)

9:50-10:00 座長：浅利昌男(麻布大)

A-6. 青森県産ユビナゴウモリ *Miniopterus fuliginosus* 雄の季節繁殖および精巣におけるレクチン反応性に関する研究 ○高田佳寿子1、水上拓郎1、佐藤 剛1、森垣孝司1、猿渡鉄也1、木村順平2、向山 満3、金井克晃1、九郎丸正道1、林 良博1 (1 東大・獣医解剖、2 日大・獣医解剖、3 三戸高校)

10:00-10:10 座長：佐々木文彦(大阪府大)

A-7. 出生前のPCBsおよびDES投与が雄ラット精巣内分泌機能に及ぼす影響：○山本雅子1、白井明志2、有嶋和義1、赤堀文昭2 (1 麻布大・獣医解剖第二、2 麻布大・獣医薬理)

10:10-10:30 座長：木曾康郎(山口大)

A-8. 出生初期における雄性生殖細胞(Gonocyte)の増殖再開とテストステロンの効果について：○永野麗子1、後藤英夫1 (1 農業生物資源研・生体防御研究グループ・疾患モデル動物)

A-9. 生殖腺原基に一過性に発現するMFG-E8蛋白の細胞接着能：○石井万幾1、金井克晃1、金井正美2、田島陽一2、野馬隆志1、城所知秀1、水上拓郎1、藤澤正彦3、九郎丸正道1、佐内 豊2、林 良博1 (1 東大・獣医解剖、2 都臨床研、3 生研機構)

10:30-10:40 座長：有嶋和義(麻布大)

A-10. Bisphenol-Aの Maus胎子生殖腺の性分化における影響：○平松竜司1、水上拓郎1、野馬隆志1、城所知秀1、アンドリアーナ・ビビン1、藤澤正彦2、金井克晃1、九郎丸正道1、林 良博1 (1 東大・獣医解剖、2 生研機構)

10:40-10:50 座長：九郎丸正道(東大)

A-11. Environmental hormones affect the testes of the common carp (*Cyprinus carpio*) in the rivers in Osaka, Japan: ○アミン ハッサニン1、桑原佐知1、塚本康浩1、小川和重1、平松和也2、佐々木文彦1 (1 大阪府大・獣医解剖、2 大阪府淡水魚試)

10:50-11:10 座長：神田尚俊(農工大)

A-12. 柱分化過程におけるメチル化阻害剤による生殖腺の遺伝子発現解析：○水上拓郎1、金井克晃1、金井正美1、石井万幾1、城所知秀1、野馬隆志1、平松竜司1、藤澤正彦3、九郎丸正道1、林 良博1 (1 東大・獣医解剖、2 都臨床研、3 生研機構)

A-13. Heat shock promoterを用いたSry遺伝子導入マウスの作製について：○藤澤正彦1、城所知秀2、金井克晃2、金井正美3、水上拓郎2、

3月29日(金) 第IV会場 演題番号A-16-27 (9:30~11:30) 9:30-9:50 座長：杉田昭栄(宇都宮大)

A-16. ニワトリにおける頸膨大と腰膨大に由来する脊髄小脳線維の投射：○上原正人1、今川智敬1 (1 鳥取大・家畜解剖)

A-17. 家畜の星状神経節内神経ペプチドの検索：末石篤司1、○那須哲夫1、森本正敏2 (1 宮崎大・家畜解剖、2 佐賀医大)

9:50-10:00 座長：上原正人(鳥取大)

A-18. ウサギ各耳介筋および各顔面筋を支配する顔面神経核神経細胞群の局在性について：○古谷果1、青山真人1、杉田昭栄1 (1 宇都宮大・院・農・機能形態)

10:00-10:20 座長：谷口和之(岩手大)

A-19. ラット副嗅球におけるTH陽性細胞の分布：○松岡淳子1、松岡勝人2、車田正男2、市川真澄3 (1JST・CREST、2 新潟大・院・医歯学総合、3 都神経研・発生形態)

A-20. マウス視床下部におけるソマトスタチンニューロンの加齢変化：○桑原佐知1、塚本康浩1、小川和重1、田中 慎2、佐々木文彦1 (1 大阪府大・獣医解剖、2 長寿研)

10:20-10:30 座長：松元光春(鹿児島大)

A-21. LPS刺激によるウシ乳腺上皮細胞でのInterleukin-8 mRNA発現誘導：○野地智法1、麻生 久1、小峯健一2、熊谷勝男2、山口高弘1 (1 東北大・院・農・機能形態、2 ティーセル研)

10:30-10:50 座長：眞鍋 昇(京大)

A-22. マウス腎臓のレニン検出におけるPAM染色の有用性：○矢吹映1、鈴木秀作2、松元光春1、西中川駿1 (1 鹿児島大・家畜解剖、2 鹿児島大・医・動物実験施設)

A-23. ハムスターの腎臓の組織構造における系統差および雌雄差：○金井香純1、矢吹 映1、鈴木秀作2、土屋公幸3、松元光春1、西中川駿1 (1 鹿児島大・家畜解剖、2 鹿児島大・医・動物実験施設、3 宮崎医大・動物実験施設)

10:50-11:00 座長：橋本善春(北大)

A-24. 遺伝性腎疾患(ICGN)マウスの腎におけるTGF- β 1シグナル伝達経路の解析：○後藤康文1、山田(内尾)こずえ1、山口美鈴1、明石直嗣1、小倉淳郎2、山本美江2、宮本 元1、眞鍋 昇1 (1 京大・院・農・生体機構、2 国立感染症研)

11:00-11:20 座長：鈴木義孝(岐阜大)

A-25. 遺伝性腎疾患(ICGN)マウスにおける腎性貧血機序の解明：○山口美鈴1、山田(内尾)こずえ1、明石直嗣1、後藤康文1、永尾雅哉2、小倉淳郎3、山本美江3、宮本 元1、眞鍋 昇1 (1 京大・院・農・生体機構、2 京大・院・生命科学、3 国立感染症研)

A-26. 四塩化炭素誘発性肝線維症マウスへのアンチセンスオリゴヌクレオチド遺伝子導入の効果：○山田(内尾)こずえ1、ディーン・ニック2、ローゼンバウム・ジャン3、デモリエール・アレクシー3、眞鍋 昇1 (1 京大・農・生体機構、2 ISIS Pharmaceuticals、3 GREF、INSERM E9917、ポルドー第2大)

11:20-11:30 座長：北川 浩(神戸大)

A-27. EphA2 receptor and its ligand, ephrin-A1 are expressed in monocytes/macrophages: ○小川和重1、塚本康浩1、佐々木文彦1、バスクアーレ・エレナ2 (1 大阪府大・獣医解剖、2 The Burnham Institute)

3月30日(土) 第IV会場 演題番号A-28-35 (9:30~10:50) 9:30-9:50 座長：萬場光一(山口大)

A-28. イヌの胆管癌に認められた胆管増生の組織学的研究：○吉岡一機1、海老澤 崇史2、上地 正実2、武藤 頭一郎1 (1 北里大・獣医解剖、2 北里大・家畜病院)

A-29. アライグマ耳道腺上皮の糖質組織化学的研究：○安井 禎1、月瀬 東1、マイヤー・ウィルフリート2 (1 日大・獣医解剖、2 Hannover 獣医大)

9:50-10:10 座長：武藤頭一郎(北里大)

A-30. イヌの唾液腺および上部消化管における炭酸脱水酵素アイソザイムVIの発現について：○糟谷圭江1、石川武史1、市原伸恒1、村上

- ◆ 麻布大学の学生会員：保田昌彦氏は麻布大学より博士(獣医学)を取得。論文題目：In vitro において増殖因子がラット胎子臍島B細胞の分化・増殖に及ぼす作用の検討
- ◆ 宇都宮大学の学生会員：郭 曉麗氏は東京農工大学連合農学研究科より博士(農学)を取得。論文題目：ウマ網膜および視神経についての機能形態学的研究。
- ◆ 東京大学の学生会員：坂上元栄氏は東京大学から博士(農学)を取得。論文題目：精巢内ステロイド合成系へのエストロゲンおよび内分泌かく乱物質ビスフェノールAの影響に関する研究

人物往来

☆遠藤秀紀会員(国立科学博物館)は文科省在外研究員として、3月から5か月間、スミソニアン研究所・自然誌博物館に出張されます。ご本人から次のようなメッセージが寄せられました。掘削性肢端の大陸間並行進化をテーマに設定していますが、およそ80万点を擁する世界最大の哺乳類標本を用いて、解剖学の可能性を最大限まで引き出す仕事を試みます。ともに解剖学を実践したい会員の皆様、私の滞在中に、どうぞスミソニアンまでお出でください。

☆名古屋大学の内藤順平助教は平成14年4月1日づけて帝京科学大学教授として栄転されます。

☆岐阜大学の山本欣郎助手は平成14年4月1日づけて岩手大学農学部獣医学科獣医解剖学教室の助教授として栄転されます。

☆北里大学谷口和美講師は2001年4月から1年間の予定でアメリカ、モネル研究所に留学中でしたが、2002年9月31日まで延長(半年)されることになりました。

わが国が世界に誇れるニワトリの解剖書発刊

「家鶏・野鶏解剖学図説」

名古屋大学名誉教授 保田幹男 著

東京大学出版会B5版・480ページ 定価 22,000 円

本学会の名誉会員で、ニワトリの解剖学研究では世界的に著名な著者が、20年以上にわたって描き上げられた解剖図譜。他に例を見ない精密な図からなり、今後ニワトリの形態や生理の研究で世界的な基準となる体系的解剖書。大先輩のご高著の出版に敬意とお祝いを申し上げます。

◇第133回 日本獣医学会のご案内◇

岐阜大学 鈴木 義 孝

今秋の獣医学会は9月19日(木)～21日(土)に岐阜大学の当番で行われますので、皆様ふるってご参加ください。

一般講演はポスターのみ、この他にワークショップ(22テーマ)、教育講演、シンポジウム、公開特別講演等が予定されています。

解剖関係ではサテライトフォーラム、懇親会(学内で開催)および会議関係(理事会、総会)を19日に組み入れるよう努力中です。

演題の申し込みは5月7日～6月14日です。

詳細は学会誌や学会のホームページでご確認ください。

◇平成14年度名簿の発行について◇

名簿を夏休みに編集し、秋の学会までに発行を予定しております。名簿の記載事項に変更のある方も無い方も山田までご連絡ください。

電子メール：iyamada@cghihiro.ac.jp, FAX: 0155-49-5354 または 〒080-0834 帯広市稲田町帯広畜産大学 獣医解剖 山田純三 まで
記載事項：

勤務先名、その所在地、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス。

自宅住所、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス。

個人会員の方は個人で、講座の方は(学生会員を含めて)まとめて7月末日厳守で上記記載事項をお送りください。

編集後記

皆様のご協力のおかげでNews Letter No. 19号をお届けできますことに御礼を申し上げます。

獣医学教育の改善のための獣医学科の再編・統合は、遠山文部科学大臣のいわゆる遠山プランが提示され、担当課長もこれまでの獣医学関係者の自主的な長年にわたる努力を評価している等の開陳があり、われわれの長年の夢がいよいよ実現が近いとの期待を持たせましたが、現実には厳しいですね。しかし、教育に責任を持つ私たちが主張しないで誰が代弁してくれるのでしょうか？

若いときはあまり考えなかったのですが、近頃は自分で出来ることで少しでも教育を改善しようと考えているようになって私です。

会員の皆様のご健勝とご発展を祈ります。(平成14年3月18日記)



学窓社 新刊案内

株式会社 学窓社 〒113-0024 東京都文京区西片 2-16-28

TEL 03-3818-8701, FAX 03-3818-8704, <http://www.gakusosha.co.jp/>

「獣医組織学」 第二版 A4変型判/328頁/

総カラー、写真図表多数、日本獣医解剖学会編、定価9,975円(本体9,500円+税)送料450円

「犬の解剖アトラス」第6版B4変形判/原書228頁、林良博・橋本善春 監修 5月発刊予定(価格未定)。

「犬と猫の臨床免疫学」B5変形判/原書288頁/総カラー、写真506点、図表106点/辻本元・大野耕一 監修 定価15,750円(本体15,000円+税)送料450円

「犬と猫の救急処置マニュアル」A4判/389頁/カラー写真158点/中間 實徳 監訳 定価18,900円(本体18,000円+税)送料520円

「獣医看護事典」A5変型判/306頁、日本動物看護学会編、今道友則・牧田登之 監修、定価5,250円(本体5,000円+税)送料310円

「獣医5分間コンサルト 犬と猫の診療のために」A4変型判/1320頁/CD-ROM付、長谷川篤彦 監修、定価47,250円(本体45,000円+税)送料660円

「ウサギの内科と外科マニュアル」

A4判 並製本/160頁/総カラー/斉藤久美子 訳 6月末発刊予定(価格未定)。

「獣医病理学実習提要」A4判/68頁、日本獣医病理学会編、定価2,625円(本体2,500円+税)送料240円

「小動物の臨床栄養学」A4変型判/1386頁/写真図表多数、本好茂一 監修、発行所：日本ヒルズ・コルゲート(株)内、マーク・モーリス研究所、日本連絡事務所。販売は(株)学窓社 にても受付中。定価26,250円(本体25,000円+税)送料660円

「獣医臨床シリーズ 2001年版 29-3 新しい麻酔薬・麻酔法・麻酔関連薬」B5判/176頁/写真16点・図表23点、Nora S. Matthews 編、小久江栄一・下田実 監訳、定価12,600円(本体12,000円+税)送料380円

ご注文はファックスまたはホームページからどうぞ!